

宇陀市次世代育成支援後期行動計画

～平成24年度進捗状況報告～



「子どもが地域に見守られ

安心して未来に羽ばたけるまち 宇陀」

平成24年10月

宇陀市健康福祉部 子ども支援課

平成24年度進捗状況報告

～宇陀市次世代育成支援後期行動計画～

● 行動計画と進捗状況の確認・評価

「宇陀市次世代育成支援後期行動計画」は、次代を担う子どもと子育て家庭の支援を総合的・計画的に推進することを目的に策定されました。

平成22年3月に策定されたこの計画は「次世代育成支援対策推進法」第8条に基づく行動計画であり、この計画を実効性のあるものとして進めるためには、その進捗状況をしっかりと管理(確認・評価)する必要があります。

● 進捗状況の公表

計画の実施にあつては、行政のみならず家庭や地域、保育所、幼稚園、学校、企業等が一体となり、次世代育成支援対策に関する取り組みを推進することが不可欠であるため、計画に基づく措置の進捗状況等に係る情報を、毎年公表していきます。

① 平成24年度主要事業進捗状況報告

進捗状況	事業件数	割合
継続	82 件	100.0 %
計	82 件	100.0 %

②平成24年度特定事業の進捗状況報告

		平成24年度 実績	平成26年度 目標	26年度目標に対する進 捗割合(23年度実績)	
平日昼間の保育サービス					
3 歳 未 満 児	認可保育所(園)	(人)	137	180	76.11%
	保育5サービス	(人)	137	180	76.11%
	うち 家庭的保育事業	(人)	未実施	検討	ニーズに合わせて検討
3 歳 以 上 児	認可保育所(園)	(人)	213	316	67.41%
	保育5サービス	(人)	213	316	67.41%
	保育6サービス うち 認可保育所+家庭的保育 +幼稚園の預かり保育	(人)	583	436	133.72%
全 体	特定保育事業	(人)	—	—	ニーズに合わせて検討
		(か所)	未実施	検討	
夜間帯の保育サービス					
	延長保育事業	(人)	5	6	83.33%
		(か所)	1	2	50.00%
	夜間保育事業	(人)	—	—	ニーズに合わせて検討
		(か所)	未実施	検討	
	トワイライトステイ事業	(人)	0	8	—
		(か所)	0	1	—
休日保育事業	(人)	—	—	ニーズに合わせて検討	
	(か所)	未実施	検討		
病児・病後児保育事業	(日数)	—	—	ニーズに合わせて検討	
	(か所)	未実施	検討		
うち 体調不良児対応型	(日数)	—	—	ニーズに合わせて検討	
	(か所)	未実施	未実施		
うち 病児対応児・病後児対応型	(日数)	—	—	ニーズに合わせて検討	
	(か所)	未実施	検討		
一時預かり事業	(日数)	1115	1591	70.08%	
	(か所)	5	5	100.00%	
ショートステイ事業	(か所)	0	1	—	
放課後児童健全育成事業	(人)	135	165	81.82%	
	(か所)	5	5	100.00%	
地域子育て支援拠点事業	(か所)	1	3	33.33%	
ファミリー・サポート・センター事業	(か所)	0	1	平成24年度は、子育て サポートクラブとして実施	

宇陀市次世代育成支援後期行動計画 ～平成24年度進捗状況報告

政策目標		推進項目		事業名称	平成24年度の実績・評価	H24 進捗
1	子どもが心身ともに健やかに成長するための支援	①	子どもと母親の健康の確保	1 効率的な母子保健事業の充実 (健康増進課)	健康増進課、保健センターが連携し、効率よく事業を実施。 子育て連携会議など関係課・関係機関と連携した事業を実施。 また、平成24年度より「要支援家庭検討会議」を実施し要保護児童に至るまでのハイリスクケースについて情報共有を行い、対応について検討している。	継続
				2 健康づくり推進事業(健康増進課・保健センター)	健康づくり推進員に対し、健康うた21計画の妊産婦・乳幼児の取組について周知	継続
				3 母子健康手帳の交付と妊婦指導 妊婦一般健康診査受診票交付 (健康増進課・保健センター)	妊娠届出数 131件 妊娠12週以降の妊娠届出数 7件(5.3%) 妊婦健康診査補助券綴り等交付数 124件	継続
				4 母親教室 妊婦への個別の保健指導 (健康増進課・保健センター)	・たまごクラス(母親教室) 参加人数:実33人 延 58人 出産・育児に備えて知識伝達し、母、父になる心構えを構築するきっかけづくりにする。また、妊婦同士交流することで出産後も情報交換をしながら安心して育児ができるきっかけとなる。 ・個別の保健指導 面接・訪問による被指導者数:101人	継続
				5 乳児(新生児)、産婦訪問指導 (保健センター)	乳児家庭全戸訪問事業と併せ実施。 全出生を対象とし、助産師会を通じ助産師に委託および保健師による訪問を実施。 訪問実施数:乳児 157人 産婦 153人 転出等により対象中 3人未実施	継続
				6 乳幼児訪問指導 (保健センター)	主に健診未受診者、健診受診後の要経過観察児を対象に実施しているが、こうしたケースの把握や支援の方法として、所内面接による相談や支援の件数の方が多い 訪問実施件数:実41件 延52件 所内での面接相談や指導件数数:実156件 延195件	継続
				7 育児教室 (保健センター)	ひよこクラス(育児教室) 4クール(全3回)実施 参加人数 実47人 延121人 最終回に仲間作りのきっかけとして、妊婦との交流の場としてたまひよサロンを実施。 たまひよサロン(妊婦と乳児・保護者の交流)時参加人数:40人 たまひよサロンは、子育て支援センターを利用することで、子育て支援センター事業に乳幼児やその養育者が参加するきっかけとなる。	継続
				8 乳幼児健康診査 (保健センター)	※別紙	継続
				9 カンガルー教室 (保健センター)	平成24年5月～平成25年2月まで、月1回 年間10回実施 参加人数 実18人 延69人 継続支援が必要なケースは、こあら教室(療育教室)へ移行、入園に至るまでに個別に継続支援を実施	継続
				10 予防接種(保健センター)	※別紙 乳児(新生児)・産婦訪問指導時、予防接種の必要性や接種に関する具体的な情報を提供。ひよこクラス時、実際に予防接種のスケジュールを組み、具体的な予防接種の受け方について学ぶことで、スムーズに接種を受けることができる。 平成24年10月から予防接種説明会を実施 参加者数:63人(5回実施)	継続
				11 宇陀市立病院小児科の設置 (市立病院)	宇陀市立病院には小児科を設置しており、事業目的としては達成しているといえる。求められる取組み内容『小児医療体制の整備を図り安心できる医療を提供できるよう努めること』という観点から評価するならば、現在の市立病院小児科の医師は非常勤医師であるため、入院患者の受け入れが出来ない現状にある	継続
				12 小児・妊産婦医療情報の提供及び救急医療、 情報の提供 (健康増進課・保健センター)	乳児(新生児)・産婦訪問指導時、救急時の診療体制や電話相談窓口に関するリーフレットを配布。 毎月全出生児の保護者を対象に予防接種説明会を実施。 (H24年10月から開始 実施回数:5回 参加者数:63人) 予防接種法の改正に伴い、市内医療機関従事者を対象に予防接種説明会を実施	継続
		②	食育の推進	13 食生活改善推進員活動 (保健センター)	食育推進の一環として、子どもの頃から野菜を毎食食べてバランスの良い食生活を身につける事を目的に小学校・保育所等の園児・児童・保護者を対象に調理実習及び講義を実施した	継続

宇陀市次世代育成支援後期行動計画 ～平成24年度進捗状況報告

政策目標		推進項目		事業名称	平成24年度の実績・評価	H24 進捗
1	子どもが心身ともに健やかに成長するための支援	②	食育の推進	14	食育の推進 (教育総務課・保育所(園)・幼稚園・小、中学校、給食センター・保健センター) 宇陀市独自で食育推進の歌として「毎食楽しく食事を食べる事」を目指した『元氣ごはんの歌』のCDを作成、市内幼・保・小学校に配付。また、野菜を毎食食べてもらうために簡単にできる野菜料理を市民から募集し、「野菜たっぷりクッキング」としてうだチャン11で放送している。 幼、保 ・試食会を実施し試食後、栄養士より給食の調理の仕方や味付け、量等を指導してもらい食べることの大切さを理解してもらうことができた ・菜園活動を通し、収穫した野菜でクッキングを行い、苦手な食べ物も少しずつ食べられるようになってきた。また、食生活改善推進員を講師に招き親子クッキングも実施した 小学 ・給食指導として、大きく3つの指導目標を設定し、取り組んできた。また、給食時には、校内放送で給食クイズや食に関する内容の話をしながら意識付けを図った。 指導目標 ○楽しい会食 ○正しい食生活の理解 ○勤労と感謝 ・子どもたちの発達段階に応じて、食べ物の栄養や働きと健康について、教科の学習とも関連付けて学習を進めてきた。5年では合鴨農法による米作り体験を通して、食の大切さについて学習した。6年では、栄養士を講師に招き、成長期における食の大切さについても学習した。 ・給食試食会を実施し、栄養士から学校給食の工夫を伺い、食の大切さを理解してもらった機会となった。 ・栄養教諭と協力しながら、各学年の「食」に対する指導目標や年間計画に沿い、授業を組み立て、進めることができた。・朝食に関するアンケートを行い、結果を報告することで子どもたちや保護者に「食」の大切さについて改めて認識してもらうことができた	継続
					中学 ・食堂入り口2カ所に献立掲示板設置。食堂内の各所に献立のイラスト掲示。 ・生活実態調査を実施し、朝食をとっていない生徒の把握、残乳調査を実施し、学校だより等で保護者に啓発。 ・教科(家庭科)でアンケートを実施、生徒の食生活の実態を把握。給食指導を徹底した結果、ほぼ、残食ゼロであった。 ・家庭科の「食物」分野や、給食指導を通して、「食」の大切さへの理解をすすめた。 ・教科指導(保健)、学級指導の中で、朝食を抜かないでバランスよく食事をとることの大切さを指導した	継続
		③	次代の親の育成支援	15	異年齢交流・職業体験 (保育所(園)、幼稚園、小・中学校、高校、保健センター) ・健康うだ21計画思春期保健部会の一環と併せて、「中学生と乳幼児のふれあい体験事業」を市内全中学校を対象に実施。 室生中学校3年生:28人、菟田野中学校2年:32人、大宇陀中学校3年:65人、榛原中学校2年144人 ・ふれあい体験事業実施前に、助産師による事前学習を実施。 室生中学校3年生:34人、菟田野中学校2年:32人、大宇陀中学校3年:65人、榛原中学校2年:139人 幼、保 ・中学生や高校生の職場体験の受け入れを行い、日頃触れ合う機会が少ない中学生や高校生と関わりをもつことで、温かさや優しさを感じることができた。また、園行事にも参加をしてもらった。 ・月1回お楽しみ会(誕生会)を園全体で行い、異年齢で誕生児を祝ったりふれ合い遊びをしたりして交流を図った。 ・小学生との交流を通し、園舎の見学や校庭で遊ばせてもらうことで、入学への期待をふくらませることができ、スムーズな入学ができた。(年3回交流)・毎朝全園児が集まってリズム体操や運動遊びを行いながら、異年齢での活動を深めた。 小学 ・6年生が1年生の教室に足を運び、本の読み聞かせや紙芝居などをして交流を図った。また、掃除の手伝いなどをしながら1年生との関わりを深めることができた。 ・異年齢交流では、小規模校の特性を生かした縦割り班活動を取り入れている。日々の清掃活動や体育的行事、集会活動などで実施することができた。職業体験では、5年生でのカモ米作り、4年生での消防署や水道局・ゴミセンターの見学、2・3年生でのスーパーや商店街・産業の見学などを実施することができた。 ・4学年においては、産地直売所「こもれび市場」主催のこもれび祭に参加し、自分たちの育てた花の苗を販売し、農業体験並びに販売体験をすることができた。 ・高学年のクラブ活動では、地域高齢者に茶道の指導を受け、交流することができた。 ・栽培活動や学校行事での全校縦割り班活動を通して、異年齢間のコミュニケーションの促進や交流を図った。 中学 ・地元の幼稚園に職場体験学習等に何うことにより園児たちとふれあえた。 ・年度末プランターに花を植え、小学校、幼稚園へ配布することで、自分たちが育った学校や地域への感謝の気持ちと、園児・児童への花を大切にすることを伝える。 ・各学年で、色んな行事を通して取り組むことができた。 ・ふれあい体験事業として、乳幼児との触れ合い体験を行った。また、地元高校と一緒に、年2回クリーンキャンペーンを行い奉仕活動を行った。	継続

8【乳幼児健康診査】大宇陀保健センター・室生福祉保健交流センターで実施

		健診回数	対象者数	受診者数	受診率 (%)	未受診者	未受診者中、 未把握者数
乳 児 健 診	4～5か月児 健診	12	171	160	93.6	11	1
	10～11か月児 健診	12	166	157	94.6	9	1
1歳6か月児健診		7	162	155	95.7	7	3
3歳児健診		9	206	186	90.3	20	3
2歳児歯科健診		7	161	149	92.5	12	8

健診未受診者への対応は、次回の健診案内・面接・訪問・電話連絡・予防接種時に面接・幼稚園・保育所連絡を実施。未受診者の中には転出や長期入院・海外在住者もあるが、関係機関などと連携し、把握に努めている。

10【予防接種】

種別	接種者数 (延べ人数)	接種方式
BCG	160	榛原保健センターで実施
ポリオ（生）	123	4月のみ榛原保健センターで実施
ポリオ（不活化）	519	11月から医療機関で接種
3種混合	549	10月まで大宇陀保健センターおよび 榛原保健センターで実施（3種混合） 11月から医療機関で接種
4種混合	57	
MR1期	161	医療機関で接種
MR2期	189	
MR3期	259	市内各中学校で実施
MR4期	230	医療機関で実施
日本脳炎	1311	大宇陀保健センターおよび榛原保健 センターで実施
		医療機関で実施
ジフテリア・破傷風	250	市内各小学校で実施

※ 予防接種説明会：生後2か月児の保護者対象に10月から榛原保健センターで実施
実施回数：5回 参加者数：63人

宇陀市次世代育成支援後期行動計画 ～平成24年度進捗状況報告

政策目標	推進項目	事業名称	平成24年度の実績・評価	H24 進捗
1	子どもが心身ともに健やかに成長するための支援	④ 就学前教育の充実	16 園庭解放 (保育所(園)、幼稚園)	継続
			・園庭開放を実施。週2日～3日、時間は、1時30分～3時頃と各園の実態によって異なる ・子どもの遊び場の確保、親子の交流の場として、開放している	
			・月1回の園庭開放で保育園の園庭を、地域の未就園児に安心して遊ばせることができる遊び場やふれあいの場として利用してもらうことができた。 ・文化祭や運動会に招待し、保育園の行事を知ってもらい、就学前の児童との交流ができた。	継続
			17 保育所(園)、幼稚園と小・中学校の連携 (保育所(園)、幼稚園、小・中学校)	
			幼、保 ・幼小連絡会を年間3回と、授業参観や保育参観で交流を行った。 ・子どもたちが小学校の校庭で遊ばせてもらったり、校舎の見学をさせてもらったりして、入学への期待が膨らんだ。 ・幼稚園での出来事や小学生との交流を写真や文書で、交流後も印象的なものとなるよう知らせた ・中学校は職場体験前より連絡会をもって情報交換をし、スムーズに体験学習に入れるようにした。	
			小学 ・1年生が、就学前の園児たちに、本の読み聞かせをしている。児童はそれらのことをすることで、年下の子どもたちに優しく接しようとする気持ちを持ったり、成長した自分に気づくことができる。 ・秋の運動会に園児が参加できる種目を設定している。 ・幼稚園・保育所とは、学校探検や運動会、一日体験入学の機会、中学校とは6年生が一日体験入学の機会を設け、交流を進める他、教職員との交流を図っている。 ・秋の運動会を共同開催している。また夏休み明けに実施している児童作品展や、5年生の音楽発表に幼稚園児を招待し、見学してもらった。職員間では、幼稚園の避難訓練に小学校教員が協力した。 ・幼稚園や中学校とは、授業参観や連絡会を通して年に数回連携を図っている。特に、気になる子については、直接担任の先生から具体的な様子を聞き、学級編制や入学後の指導に役立てている。 ・夏休みには、中学校の陸上練習に参加、県の陸上記録会に向けて指導を受けている。また、一日体験入学では、部活動紹介や体験入部をさせてもらい、児童・生徒が交流する時間をもてた。	
			中学 ・育児体験、保育体験を実施。幼児の思いや願いから、命の大切さや子育ての大切さ、家族の絆等を学べた。 ・市の「健康うた推進事業」で「乳幼児とのふれあい体験」を実施することができた。 ・市教委主催の保・幼・小・中連絡会に参加し、連携を深めた。また、中学校区の小学校との連絡会を每学期もち、児童、生徒についての情報交換を行い、校種間での授業参観等も行い連携を密にしている。	
			18 乳幼児教育の振興活動 (保育所(園)、幼稚園)	継続
			幼 ・未就園児交流会(年5回)を実施し、行事にも参加を呼びかけ、幼稚園を知ってもらった ・未就園児交流会に支援センターと一層の交流を図りながら、子育てや入園についての不安を解消するよう努めた。 ・ボランティアの方に来てもらい絵本や紙芝居を読んでもらったり、地域の方に保育所の行事に参加してもらったりして、地域ぐるみで子どもたちを見守ってもらうようにした。 ・小学校と園だより・学校だよりの交換をし、より理解を深めた。卒園した小学生が来園し交流したり、校庭で遊ばせてもらったり、連絡会やお互いの参観を通して園児や卒園児の理解に努める。	
			19 世代間交流事業 (保育所(園)、幼稚園)	継続
			幼 ・祖父母参観、自由参観、運動会、文化祭等に来園していただく機会を多くした。 ・地域の老人会の方やぬくもりサロン利用の高齢者の方等との交流を行い、触れ合い遊びをした。 ・民生児童委員の方と芋掘り、老人会の方と餅つきを一緒にに行い交流した。	
			・地域の老人会の方を保育所の行事に招いたり、いきいきサロンに招待してもらったり、敬老参観を実施したりして交流を深め、その中でいたわりや思いやりの気持ちを育てる。 ・保育園近くの地域(2自治会)の高齢者に協力を仰ぎ年2回近くの公園で交流したり、秋に園に招待して共に遊んだりする。幼稚園・小学校・中学校・榛生昇陽高校生との交流は頻繁に行う。 ・ボランティアの方による読み聞かせは毎月一回していただく。	

宇陀市次世代育成支援後期行動計画 ～平成24年度進捗状況報告

政策目標		推進項目		事業名称	平成24年度の実績・評価	H24 進捗
1	子どもが心身ともに健やかに成長するための支援	⑤	信頼される学校づくり	20 総合学習(小・中学校)	小学校 ・3～6年生で、「総合的な学習の時間」を年間70時間程度実施した。「国際理解・情報・環境・福祉・人権・地域等」の各領域について、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に解決していこうとする力をつけるための取組を行っている。また、それらの学習を通して、友だちの良さが分かり、協力して共に伸びようとする態度も養っている。 ・各学年の実態に応じて、町探検、昔の生活の体験、外国語を体験しよう、食について考えよう、福祉や平和について考えよう等、課題を設定し、教科と関連づけながら計画を立て実施した。 ・「ふるさと(地域)と向き合い、自ら考え学ぶ子の育成をめざして～人に学び、生き方を考える指導方法の工夫と実践～」というテーマのもと、各学年で取組を進めている。具体的には、ゲストティーチャーを招いてお話を聞いた、体験学習を進めたりしている。自分たちが調べたことを資料にまとめ、参観日等で発表している学年もある。子どもたちは、積極的に地域学習に取り組み、意欲的に活動している。また、ゲストティーチャーを招くことで児童の興味関心を促し、交流も図ることができた。 中学校 ・合唱コンクールに、地元のコーラスグループにも来ていただき、楽しい音楽発表会が開催できた。 ・地元の養護老人施設に出向き、地域のお年寄りとの交流を深めた。 ・地元の高校と連携し、学校周辺や校区内の清掃活動を行った。 ・マイタイム(朝の会の10分間)や年間10回の「ふれあいタイム」(放課後の1時間)を使って「質問教室」等で、基礎、基本の学力定着を図った。 ・福祉体験学習を地元の高校と連携して取り組んだ。 ・キャリア教育の一環として、市内約40カ所の事業所で職場体験学習を行った。	継続
				21 道徳教育(小・中学校)	小学校 ・「学校・家庭・地域の連携を通して、自らの力で深く考え、たくましくしっかり生きる子を育てる」という目標のもと、各学年年間指導計画を作成し、それに基づき、指導を進めている。 ・道徳の副読本を2種類整備し、心のノートや「なかまとともに」等も含めて、ねらいに適した資料を選択するようにした。 ・各学年・学級では参観日に授業を行い、保護者向けに「通信」や校内だよりを発行している。 ・平成21年度より、本校の研究テーマは道徳教育を中心に進めている。 ・子どもたちの生活実態に合わせて学習内容を精選し、取組を進めている。また、本校の研究主題である「話したり・聞いたり・書いたりする言語活動を重視しながら授業を組み立てている。各学年とも日頃の日記指導や作文指導の中で、生活を綴ることで自分たちの生活を見つめ直すことに力を入れながら取組を進めてきた。また、エンカウンター授業を導入し、参加体験的な活動を取り入れながらなかまづくりに力を注いでいる学級も多い。 中学校 ・人権教育を中心に、生命を尊重する心や自立心、自己責任、善悪の判断など基本的なモラルを高める道徳教育の充実を目指し取り組んだ。 ・道徳担当教諭が詳細な年間計画を立て、目標が達成しやすい教材を提供した。 ・道徳的な価値や実践力を習得する学習は、道徳の時間はもとより、あらゆる教育活動を通して取り組んできた。	継続
				22 部活動の支援(中学校)	・1つの部が近畿大会に二年連続で出場するなど活躍できた。他の部も各大会での勝利を目指し、努力すること、礼儀やマナーを守ることの大切さを身につけてきた。吹奏楽部は、コンクール出場だけでなく、地元の施設に出向き、演奏活動を通して交流を図ることができた。 ・生徒は部活動に意欲を持ち、活動している。また、部活動の環境整備等の支援にも教職員が組織的に取り組んだ。 ・部活動を「体力や知力の向上」「学校の活性化」として位置づけ、地域との連携や支援を受け、取り組んだ。	継続
				23 小学校、中学校の整備(学校教育課)	大宇陀小学校建設事業 1期工事が完了し、4月には野依小学校との統合式を行い、新しい学校での学校教育が開始した。	継続
				24 学校評議員制度の活用(幼稚園、小・中学校)	小学校 ・学校行事への臨席だけでなく、授業公開やオープンスクールでの参観をとおして、児童の様子や学校の現状を見てもらい、評議員会で意見を頂戴したり、県教育委員会の事業「見直そう！家庭と学校 協働プロジェクト」の実行委員会のメンバーになっていただき、建設的な意見を出していただき、事業を進めていくことができた。 ・期待と信頼に応える学校づくりを進めるために臨時的授業参観や懇談会を開催した。 ・24年度から、保護者代表の方(PTA会長・副会長)にも学校評議員を委嘱し、保護者の視点から学校の教育活動への意見や感想を聞き、学校の取組に生かすことができた。一学期に学校評価指標を提示し、年度末に学校関係者として評価していただくことでより多面的な学校評価を行うことができた。 ・年3回の学校評議員会を開催し、様々な立場からご意見をいただくことができた。また、評議員の方々には折に触れ、学校や子どもたちの様子を細やかに見ていただくことができた。	継続

宇陀市次世代育成支援後期行動計画 ～平成24年度進捗状況報告

政策目標	推進項目	事業名称	平成24年度の実績・評価	H24 進捗
1	⑤	24 学校評議員制度の活用 (幼稚園、小・中学校)	中学校 ・学校評議員の方を交え、学期に一度評議員会を開催した。学校の取組や現在の様子、成果と課題を報告しご意見をいただいている。また、地域からの声も聞かせていただき生徒や職員にも伝えることができた。入学式、卒業式、体育大会、合唱コンクールなどの学校行事にも来ていただき、生徒の様子を見ていただくことができた。 ・色々な提言や支援をいただいたことで、この制度を意義深いものにする事ができた。	継続
			幼稚園 ・評議員2名の方には、評議委員会や保育参観、行事等に参加していただき、その都度ご意見、ご指導をいただいた。また、様々な相談や情報をいただいた。 ・定期的に来園して参観していただきその後貴重な感想や指導をいただくようにした。的確な評価をしていただき、この制度の意義の深さを実感した。	
		25 宇陀市大宇陀小学校再編 (教育総務課)	「大宇陀小学校再編計画」に基づき、大宇陀小学校を1校に統合再編した。 大宇陀小学校建設工事(1期)により新校舎、体育館を建設した。	継続
		26 学校施設の開放(学校教育課、小・中学校)	義務教育施設の一般開放は既に実施している。 平成24年度使用実績 大宇陀小学校58件・野依小学校9件・菟田野小学校259件・榛原小学校95件・榛原東小学校221件・榛原西小学校317件・生西小学校156件・室生東小学校3件・大宇陀中学校279件・菟田野中学校329件・榛原中学校31件・室生中学校99件	継続
		27 適応指導教室「はばたき」 (教育総務課)	相談(来室)件数 ・保護者他相談来室(子ども来室付き添い除く) 4件 のべ46回 ・子ども来室 6件 150回 ・今年度曽爾自然の家にて、遠足を実施また恒例行事としてクリスマス会及び卒業式を行う。	継続
	⑥	28 特別児童扶養手当(子ども支援課)	特別児童扶養手当の受給者 107人(平成25年3月31日現在)	継続
		29 障害児福祉手当(介護福祉課)	障害児福祉手当の実績 障害者福祉手当19名 特別障害者手当24名	継続
		30 障害のある子どもに対する自立支援給付事業 (福祉課)	自立支援給付事業 児童ディサービス 平成23年度 7,948,705円 平成24年度 15,250,197円 補装具給付費 平成23年度 2,878,069円 平成24年度 1,788,925円 福祉サービスについては認知度があがっている。 補装具に関しては、耐用年数があるので年度により変化がある	継続
		31 障害児保育事業(保育所(園)・幼稚園)	幼 ・職員の各種研修をとおして、資質向上を図った。 ・入園前に子ども連携会議を行い、情報交換をしたことで、個々の詳しい状況がわかり指導計画が立てやすかった ・小児科診断やリハビリセンターの感覚統合訓練に同行し、園の保育に取り入れるようにした。 ・個々の成長を具体的に保護者に伝えるときにも、見通しをもった指導計画を共有することにより、信頼関係を築けた。 ・園内で特別支援教育について計画的に話し合う機会をもち、職員間の共通理解を深めた。 保 ・個々に応じた計画を立て、実態に応じた援助や支援ができていくか会議をもち、より良い援助・支援を探っていった。 ・感覚統合訓練の引率を行うことで、訓練の内容を遊びに取り入れることができた。 ・特別支援児も含めて一人ひとりの子どもの発達が進んでいくか、職員が一丸となって見ていき、話し合い、どのようにするのが良いか見極め手だてしていく。 ・打ち合わせ・特別支援会議・園内研修・研修会に参加し報告し職員の意識を高める。 ・保護者には研修や相談の機会のパンフレットを渡したり紹介したりして必要に応じて援助する。	継続
		32 心理発達相談事業(保健センター)	・相談実施者数:実 25人 延 39人 ・対象者の内、相談の必要性を受け容れてもらえないケースがある。	継続

宇陀市次世代育成支援後期行動計画 ～平成24年度進捗状況報告

政策目標		推進項目		事業名称	平成24年度の実績・評価	H24 進捗	
2	子どもの安全確保	①	子どもの交通安全を確保するための活動推進	33	交通安全登校児童指導(総務課)	・春、秋の交通安全運動期間中に各地区の通学路において、児童・生徒の安全確保のために登下校指導を実施する。	継続
				34	交通安全教室 (総務課、保育所(園)、幼稚園、小・中学校)	幼、保 ・登降園の指導を実施し、交通安全の意識を高めた。 ・交通安全教室を実施し、模擬道路での実際指導や着ぐるみ劇を通して安全な歩行の指導を受けた ・園外保育時、交通指導を行い安全意識を高めた。 ・交通安全教室を行い、サポートセンターより指導員の方を招き、安全な歩行の仕方についての指導をうけた。また、園外保育の際に、実際に道路での指導を行うことで、指導の強化を図ることができた。	継続
						小、中 ・事故の怖さ、交通ルールの大切さ、命の大切さなどを訴え登下校や日常生活での安全面でも指導した。集会等で宇陀署の方に来ていただき、映像を通して事故は身近に存在し命を失う危険性を伝えてきた。自転車点検も地元の業者に依頼し、点検していただいた。 ・春・秋の交通安全では、教員・生徒・PTAで「挨拶運動」も含めて実施できた。 ・各学期のはじめ、交通安全運動の期間中に、PTA役員と連携し、交通安全指導のための立哨を行った。	
				35	乳幼児用補助装置貸与業務事業(子ども支援課)	ヘビーシート貸与数 42件 (平成24年3月31日現在)	着手 推進
		36	交通対策協議会による地域の安全対策の推進 (総務課)	・通学時の安全対策のため集団登校用の旗(児童愛護旗)を小学校に配布した。 ・危険箇所に、「スピード落とせ」「とび出し注意」等の注意喚起看板を設置した。 ・春、秋の交通安全運動期間中園児、児童、生徒への啓発・指導を行った。	継続		
		②	子どもを犯罪等の被害から守るための活動の推進	37	「こども110番の家」旗の設置 (総務課・教育総務課)	市民の協力を得て、「子ども110番の家」旗を更新するとともに現状にあった場所に設置 大宇陀地域 103旗 菟田野地域 70旗 榛原地域 265旗 室生地域 70旗	継続
				38	防犯ブザーの配布(学校教育課)	小中学校の新1年生に防犯ブザーを配布 小学生223個 中学生255個 合計478個	継続
				39	青色防犯パトロール(総務課、教育総務課)	・職員が県警主催の青色防犯パトロール講習を受講し、小学校下校時の時間帯にパトロールを実施した。 ・教育委員会、総務部、市民環境部、各地域事務所の職員が毎月10日前後に実施	継続
	40			生活安全推進協議会による地域の安全対策の推進 (総務課、危機管理課)	・青少年の非行防止と健全育成活動の一環として、関係機関が連携し見守り活動等を実施した(宇陀地区防犯協議会) ・宇陀市暴力団排除条例において、青少年の加入防止や暴力団犯罪から被害防止のため、市が設置する学校において、教育が行われるよう措置を講ずること及び青少年の育成に携わる者に対して、市が支援等を行うことを規定した	継続	
	41	防犯教室 (総務課、保育所(園)、幼稚園、小・中学校)	幼、保 ・避難訓練の中に「防犯教室」を実施し職員劇をDVD視聴を通して身近に起こりうる「誘い」や「防犯」に危機意識をもたせる。 ・警察の方にきていただき年2回被害防止教室を開催し、子どもの被害防止に対する意識を育てた。日常保育の中で年3回「おすしの体操しましょう」と放送し防犯に備えての訓練を開催する。また、保護者に対して門扉の施錠や時間外の送迎時は正面玄関からチャイムを鳴らして入っていただく事を文章や張り紙などで徹底する。 小、中 ・宇陀署・サポートセンターの方に来ていただき、低学年は「いかのおすし一人前」について劇などを通して分かりやすく教えていただいた。高学年は、「万引き」などの犯罪をしてみたり、犯罪に巻き込まれてみたりすることの恐ろしさについて学ぶことができた。 ・全校生徒を対象に宇陀署による防犯教室や携帯安全教室を実施した。最新の情報等を専門的立場から説明していただき、大変有意義であった。 ・奈良県警青少年サポートセンターに依頼し、「万引き」の指導を寸劇を交えて行った。また、宇陀署生活安全課の方に薬物乱用の恐ろしさについて指導していただいた。	継続			

宇陀市次世代育成支援後期行動計画 ～平成24年度進捗状況報告

政策目標		推進項目		事業名称	平成24年度の実績・評価	H24 進捗
2	子ども安全確保	③	青少年健全育成事業の推進	42 喫煙・飲酒防止対策の推進 (中学校、保健センター)	・校区内の青少年健全育成協議会と連携し、毎月巡視をしている。コンビニショップや商店などに、中学生の喫煙、飲酒防止の協力を学校職員と育友会本部役員、育成指導部がお願いに回っている。年1度の薬物乱用防止教室の中でも飲酒についても指導している。 ・夏祭り、秋祭り、初えびすなどの地域の行事に教職員、PTAが校外指導を実施した。 ・主に、教科指導(保健体育)と学級指導、保健だよりを活用し指導・啓発を行った。	継続
				43 街頭啓発(生涯学習課)	・青少年健全育成街頭啓発(平成24年11月1日) 11月の全国青少年健全育成月間にあわせ、榛原駅等市内5箇所 標語入りティッシュの配布 ・立入り巡回啓発活動(平成24年11月6日) - 奈良県と合同で市内コンビニ・書店・雑誌自動販売機等立入り啓発	継続
				44 啓発標語募集(生涯学習課)	・中高生を対象に標語を募集 - 平成24年度最優秀作品 「あいさつは 言われるままに 自分から」 「大切な みんなの笑顔 消さないで」	継続
				45 講演会の実施(生涯学習課)	- 子どもたちがいじめ、痴漢、虐待、誘拐、性暴力といった様々な暴力から自分を自分で守るための力を身につけるためCAP事業の実施 - 菟田野小学校・榛原小学校・榛原東小学校・室生東小学校・室生西小学校 5校で実施 3年生を対象に228名受講	継続
				46 絵本の読み聞かせ事業(図書館)	・ブックスタート 計11回(BCG予防接種時6回、母親教室1回、育児教室4回:職員 ボランティア) ・すくすくひろばお話し会 月2回(中央図書館:ボランティア) - 市民になって間もない保護者に図書館を周知し、絵本の活用とおはなし会の参加を促すことができた	継続
3	子どもの人権の尊重と権利擁護の推進	①	人権教育の推進	47 小中学校での人権教育の推進 (教育総務課・小・中学校)	・年4回の「なかまの集い」や年数回の「人権を確かめあう日」に様々な人権問題学習に取り組んだ。 ・学校代表が邑久光明園を訪れ、奈良県人会(元ハンセン病患者)の方々と交流し研修を積んだ。 ・人権教育の推進計画をもとに、各学年や全校での集会活動など取り組んだ。5～6年生から、「みんなの広場」の参加者をつのり、毎週木曜日の放課後、人権についての学習に取り組んだ。 ・人権教育推進計画の見直しを図った。学校での取組を家庭にも知らせ、協力的な家庭教育に取り組んでもらうため、「人権だよりスマイル」を発行した。 ・参加児童を募り「ふれあい学習」を実施。50名以上で毛皮を使ったキーホルダーを作った。	継続
				48 保育所(園)・幼稚園での人権教育 (教育総務課・保育所(園)・幼稚園)	幼、保 ・「友達の良いところを認め合おう」「良いところは言葉にして伝え合おう」を実行した。 ・一人一人の子どもを大切に全職員が全園児を把握出来るように、日々打ち合わせを行っている。日常保育の中で友だちにやさしく思いやりがもてる子どもに育つように、また、トラブルがあった時には子ども達と共に話し合ったり、視聴覚を通して考え合ったりしている。職員の子どもへの言葉掛けも園内研修で研究し、切磋琢磨している。いじめのない、思いやりのもてる子どもに育つように職員が力を合わせて取り組んでいる	継続

宇陀市次世代育成支援後期行動計画 ～平成24年度進捗状況報告

政策目標		推進項目		事業名称		平成24年度の実績・評価	H24 進捗
3	子どもの人権の尊重と権利擁護の推進	①	人権教育の推進	48	保育所(園)・幼稚園での人権教育 (教育総務課・保育所(園)・幼稚園)	・学校教育振興事業(宇陀市人権教育研究会補助事業) ・市人教総会、各専門部会、市人教研究大会、全人教、奈人教、県外教、奈人推教などへの参加旅費など ・宇陀市センター研修(人権教育)実施 ・宇陀市教育委員会 人権教育の推進について(作成、配布)	継続
				49	こども人権(地域ふれあい活動体験)事業 (人権推進課)	大宇陀地域 活動日数 10日 参加人数 のべ696人 榛原地域 活動日数 61日 参加人数 のべ1271人 室生地域 活動日数 15日 参加人数 のべ72人 地域の人々に様々なことを学びました、交流をしたことにより地域との繋がりが・絆の大切さを感じることができた	継続
3	子どもの人権の尊重と権利擁護の推進	②	子どもを犯罪等の被害から守るための活動の推進	50	要保護児童対策地域協議会(子ども支援課)	宇陀市要保護児童対策地域協議会 代表者会議 1回開催(平成24年5月31日) 実務者会議 3回開催(平成24年7月12日・11月15日・平成25年2月26日) ケース会議 26回開催(随時)	継続
				51	虐待の早期発見と予防、対応 (子ども支援課、保健センター、教育総務課、保育所(園)、幼稚園、小・中学校)	安全確認や保護者への支援など各機関と連携し、支援・援助を行った。 要対協を利用した支援が活発、重要になっており、個別ケース検討会議に至るまでの各所属との現況確認、支援の打合せ等の回数が増えた。また、児童虐待防止に向けた啓発活動の充実として、広報うだへの掲載、虐待防止ポスター配布と全児童へのチラシを配布した。 保健センター 妊娠届出時より、妊娠・出産・育児に関する相談を実施し、ハイリスク者に対する継続支援を実施。 虐待予防の視点を強化したたまごクラス実施。 乳児(新生児)・産婦訪問指導を全出生児対象に実施。 乳幼児健診未受診者状況把握の実施。 事業を通じ、把握した要保護児童家庭や支援が必要な家庭について関係機関と連携。 幼、保 ・子どもの様子や保護者の言動に変化があった時は、職員で情報を共有し、早期に相談を行う。 ・子どもの様子を見ていくと共に、他の関係機関と連携し話し合いをもった。 ・ケース会議に上がった子どもを継続的に観察し、月に1回報告した。 ・子どもの様子を把握・観察すると共に、送迎時には積極的に保護者に声をかけ、話しやすい関係を築き、早期発見・予防に努めた。 小、中、教育委員会 ・毎日児童を観察し、何か気になることがあれば、定期的な家庭訪問以外にも、保護者との連絡を取り、家庭訪問をするなどして、早期発見・虐待予防に努めている。 何らかの通報が市の方に児童については、毎月担任が児童相談連絡書に記入し届けを出している。 スクールカウンセラーと連携し、保護者の思いを受け止めてもらい、虐待予防に繋がっている。 ・「児童虐待防止の対応」に基づき、児童理解を深めたり、保護者との連絡を密にしたりするとともに、子どもが「虐待が疑われるサイン」を発信していないか常に観察し、早期発見及び予防に努めた。 ・毎月全職員で子どもたちの様子について情報交換を行い、虐待の疑いについても点検を行っている。特に経過観察中の児童や気になる児童は関係機関と連携して事実確認や経過観察をしてきた。	継続
				52	個別事例検討会議(ケース会議) (子ども支援課)	個別ケース会議26回開催 通告を受理後、直ちに子どもの安全確認を行い、速やかに受理会議を実施し、各関係機関に子どもと保護者に関する情報収集や最も効果的な援助を検討した。	継続

宇陀市次世代育成支援後期行動計画 ～平成24年度進捗状況報告

政策目標		推進項目		事業名称	平成24年度の実績・評価	H24 進捗
4	子育てを支援する生活環境づくり	①	すべての子育て家庭への支援	53 地域子育て支援拠点事業 (子育て支援センター)	24年度の新規事業として、子育て相談の充実と午後からのふれあいルーム(2階)の活用を目的として「なかよしひろば」を月1回開催した。幼稚園降園後に参加出来ることで、園児を連れて未就園児も参加してくれ、異年齢交流ができた。既存の事業においてもスムーズに運営することができた。 また、子育てサークル活動支援(5団体) 年50回、子育てボランティア(20名)の育成を実施した。 平成24年度 子育て支援センター事業参加延べ人数 子ども(4243名) 大人(3591名) 合計(7835名)	継続
				54 子育てサポートクラブ(子ども支援課)	仕事と育児を両立できる環境整備と子育て支援をするサポートクラブの活動 平成24年度子育てサポーター運営会議 4回 リビングルーム(普及・啓発) 4回 サポーター養成講座 7回講座 1回 ・4回講座 1回 個別活動 随時	継続
				55 子ども手当(福祉課)	子ども手当の受給者 1,717人(平成25年3月31日現在)	継続
				56 子ども医療費助成制度 (保険年金課)	子どもの健康の保持、子育てしやすい環境づくりを目指して、通院医療費については小学校入学前の乳幼児を対象に自己負担額の一部を助成し、入院医療費については中学校卒業時までの子どもを対象に保険診療分の自己負担額の全額の助成を行った。 ・平成24年度助成件数・金額 13,967件 2,381万円	継続
				57 国民健康保険出産育児一時金 (保険年金課)	子どもの健康の保持、子育てしやすい環境づくりを目指して、通院医療費については小学校入学前の乳幼児を対象に自己負担額の一部を助成し、入院医療費については中学校卒業時までの子どもを対象に保険診療分の自己負担額の全額の助成を行った。 ・平成24年度助成件数・金額 13,967件 2,381万円	継続
				58 宇陀市立幼稚園保育料減免 (教育総務課)	・宇陀市立幼稚園の園児の保護者に対して保育料の支払いの経済的負担が大きい階層を対象に、保育料の減免措置を行った。 ・11名 452,000円	継続
				59 就学援助(教育総務課)	小学校 120名 7,005千円 中学校 91名 8,014千円	継続
				60 宇陀市ぬくもり修学奨励金 (教育総務課)	高等学校 15名 900,000円 専修学校 1名 60,000円 専門学校 3名 360,000円 大学校 6名 720,000円	
				61 出産祝い事業(福祉課)	出産祝い品贈呈数 150件(平成25年3月31日現在)	着手 推進
5	子育てと仕事との両立の支援	①	多様な保育サービスの充実	62 保育所(園)の整備(子ども支援課)	増加する榛原地域の保育所ニーズに対応すべく、民間保育所の誘致等も含め検討を行った	着手 推進
				63 通常保育事業 (子ども支援課、保育所(園))	・保護者の就労時間に応じて早期保育や長時間保育を行い、安心して働ける環境作りを行った。 ・計画的に園内研修を行ったり各機関の研修会に参加したりして保育士の資質向上を図った。 ・園内研修(講師招聘する分・職員のみで行う分)と、県や市からの研修を通して保育士の質の向上を図る。保育の中で重要な世代間交流(幼・小・中・高・高齢者等)を通して子ども達の人格形成に役立てたり、園だよりクラスだよりはもちろん、行事や日常の遊びや生活の様子を写真に撮り掲示したりして園への理解を図っている。また、子育てに対する不安を取り除けるように相談に応じたり、講演会を開いたりして啓発する。 ・園内でのトラブルなどにも素早く対応し保護者の信頼を得る。 ・園としての課題克服の一手段として朝一番に心も体も目覚めさせるきらきらタイムや鳥見山登山や年間通じての園外保育等体力づくりを計画し実行する。	継続

宇陀市次世代育成支援後期行動計画 ～平成24年度進捗状況報告

政策目標		推進項目		事業名称		平成24年度の実績・評価	H24 進捗
5	子育てと仕事との両立の支援	①	多様な保育サービスの充実	64	一時預かり保育事業 (子ども支援課、保育所(園))	・保護者の多様な就労形態やニーズに対応し、出来る限り受け入れると共に、安全で安心できる保育環境を整え、保護者のリフレッシュや就労、子育てを支援する。入園希望者で入園までのつなぎの慣らし保育として受け入れることで、就労の支援をすることが出来た。また、就労されている方は定期的に利用されているので需要と供給は概ね一致している。 ・概ね利用者の希望を受け入れることができた。	継続
				65	延長保育事業 (子ども支援課・保育所(園))	早期保育・・・午前7時30分～8時30分 延長保育・・・午後4時30分～6時30分 概ね保護者のニーズに応えられていたと思う。遅くなると連絡をもらった保護者には必ず「慌てなくて良いから、きを付けて来て下さい。」と伝える等保護者の思いを受け止めるようにしている。 ・保護者の就労時間に応じて時間を決め対応する。また、急に仕事等で迎えが遅くなる場合は、その都度対応する。	継続
				66	預かり保育事業 (教育総務課・幼稚園)	保護者が安心してリフレッシュできるよう預かり保育を実施している。 ・平成24年度利用件数 大宇陀幼稚園 1,200件 榛原幼稚園 1,086件 榛原東幼稚園 1,914件 榛原西幼稚園 832件 室生幼稚園 764件 合計 5,796件	継続
				67	子育て短期支援事業(トワイライトステイ) (子ども支援課)	平成24年度 該当ケースなし	継続
				68	子育て短期支援事業(ショートステイ) (子ども支援課)	平成24年度 該当ケースなし	継続
				69	放課後児童健全育成事業(学童保育) (人権推進課、児童館、子ども支援課)	大宇陀児童館・菟田野児童館・室生西児童館では、従前からの児童館活動に代わって、大宇陀児童館クラブ・菟田野児童館クラブ・室生西児童館クラブとして平成24年4月1日から「放課後児童健全育成事業」に特化した事業展開を行った。また、保護者の就業状況等に応じ、長期休業期間の早期時(午前8時～午前9時)や、夜間は午後7時まで児童を保育する体制を構築して、子育てと仕事との両立支援に寄与した。 大宇陀児童館クラブ開館日数:年間253日 菟田野児童館クラブ開館日数:年間253日 室生西児童館クラブ開館日数:年間253日	継続
						・榛原地域において、榛原小学校学童保育室は、1年～3年延べ461人、榛原東小学校学童保育室は1年生～4年生延べ498名の受入を行った	
		②	ひとり親家庭に対する自立支援の推進	70	児童扶養手当(福祉課)	児童扶養手当の受給者 母子 196人、父子 17人、養育者 3人 (平成24年3月31日現在)	着手推進
				71	母子医療費助成制度 (保険年金課)	子どもの健康の保持、子育てしやすい環境づくりを目指して、通院医療費については小学校入学前の乳幼児を対象に自己負担額の一部を助成し、入院医療費については中学校卒業時までの子どもを対象に保険診療分の自己負担額の全額の助成を行った。 ○平成24年度助成件数・金額 13,967件 2,381万円	継続
		③	男女共同子育ての推進	72	男女共同参画社会の必要性の啓発 (人権推進課)	集会では、人権擁護委員によるプレゼンと市民劇団による発表講演を実施。参加者からは、大津のいじめ事件や児童虐待など身近な問題から人間の心理を検証した内容の話は、わかりやすくして共感を得ることができた。	継続
				73	男女共同参画による子育ての促進 (健康増進課・保健センター)	たまごクラス時、妊婦の配偶者を対象に教室を土曜日に実施。グループワークなどで配偶者の協力について啓発。 配偶者の参加者数: 11人	継続
6	地域における子育ての支援	①	ネット子育て支援の構築	74	子育てサークル活動育成支援事業 (子ども支援課・保育所(園)・子育て支援センター)	・市内子育てサークルは、5団体。 ・主な活動場所は、子育て支援センターや大宇陀幼稚園、公共施設(フレンドパーク・アニマルパーク など)を利用。 ・サークル会議を年2回実施。またサークル活動の写真を掲示し活動意欲を高め、周知を図った。	継続
				75	子育て情報の提供(子ども支援課)	子育てに関する情報を、ホームページやツイッター等を活用し情報発信を行っている。	継続

宇陀市次世代育成支援後期行動計画 ～平成24年度進捗状況報告

政策目標		推進項目		事業名称	平成24年度の実績・評価	H24 進捗	
6	地域における子育ての支援	②	子どもの多様な体験活動の機会充実に	76	文化芸術活動体験交流(企画課)	・廃校となった小学校を活用した文化芸術活動体験交流施設として、「ふるさと元気村」があり、芸術家の作品とふれあえたり、世代や地域を越えた交流の場となっている。体験学習として、年間を通じた教室事業やホテル鑑賞など自然の保全や季節の体感ツアーなどを行っている。 教室事業 19教室(月1～2回) イベント事業 年4回	
			子どもの多様な体験活動の機会充実に	77	こどもフェスタ(生涯学習課)	宇陀子どもフェスタ2012(平成24年9月10日) 紙ひこうき大会、チャレンジランキング、クラフト、大声コンテスト、タイムトンネル・昔あそび、人形劇、ジュースの釣堀、水てっぽう等 約1,500人参加	継続
				78	市スポーツ少年団(生涯学習課)	6単位団(野球・バドミントン・バスケットボール・バレーボール・少林寺拳法)各種目による親善大会の開催	継続
				79	ジュニアリーダー養成(生涯学習課)	宿泊体験活動を通して自主性や協調性を養い、学校の枠を越えた交流とジュニアリーダーの養成を図ることを目的に、避難所疑似体験事業を計画、25年度より本格的に事業化する。	継続
				80	子ども会連合会(生涯学習課)	・子どもフェスタ参画(平成24年9月10日) ・手作り体験学習会(平成24年11月4日)	継続
		③	子どもの居場所づくり	81	児童館活動(人権推進課・児童館)	大宇陀児童館・菟田野児童館・室生東児童館・室生西児童館・室生北児童館では、平成23年度をもって児童館活動を終了しました。特に、室生東児童館・室生北児童館については、行政改革により平成24年4月1日以降は休館しています。 大宇陀児童館・菟田野児童館・室生西児童館では、従前からの児童館活動に代わって、大宇陀児童館クラブ・菟田野児童館クラブ・室生西児童館クラブとして平成24年4月1日から「放課後児童健全育成事業」に特化した事業展開を行った。	継続
				82	地域放課後子ども教室推進事業(人権推進課・生涯学習課)	【地域ふれあい活動体験事業】 地域で活躍されている人たちの職場等を訪ね、様々なことを学ぶ。また、地域の人たちと交流をすることにより、地域との繋がり・絆の大切さを感じることができ、地域の良さを再発見することができた。 市内4地域の中学校等において実施 ・大宇陀地域 年間20日 参加人数のべ739人 ・菟田野地域 年間70日 参加人数のべ1,013人 ・榛原地域 年間30日 参加人数のべ346人 ・室生地域 年間21日 参加人数のべ924人 1教室実施 活動場所 図書館、集会所 活動状況 週1回程度 年間40回 参加状況 延べ520人 活動内容 お話会、工作教室、健康教室、高齢者との交流会等	継続